

まきお食育ニュース

令和6年7月号



給食に毎日登場する飲み物といえば、牛乳ですね。和泉市の給食の牛乳容器は、昨年度からストローが廃止され、牛乳パックは本格的にリサイクルされるようになりました。

牛乳パックのリサイクル

「給食の牛乳パックはリサイクルされている」ことは、お話したことはありますが、どのような方法でリサイクル業者さんに渡されているのかは、あまりお伝えできていませんでした。飲み終わった牛乳パックは給食室できれいに洗って、乾かし、小さくしておかないと、業者さんは預かってくれません。今月のまきお食育ニュースでは、その様子をお知らせします。



- ① まず、みなさんが飲み終わり、給食委員さんが整理してくれた牛乳パックに網をかけます。
- ② 網をかけた黄色の容器ごと、水につけ、ガサガサとふり洗いをします。パックの口がきちんと空いていなかったり、牛乳が残っていたりすると大変です。

③ 水を捨てて、もう一度ふり洗いをします。これを3回繰り返します。だんだん、水が透明になってきます。



- ④ きれいに洗った牛乳パックを給食室の外に出し、逆さにして、1日置いて乾燥させます。
- ⑤ 乾燥させた牛乳パックを踏んで空気を抜いて、小さくします。
- ⑥ 小さくなった牛乳パックをビニル袋に入れ、まとめます。



- ⑦～⑨ 和泉市のシルバー人材センターさんが堺市のリサイクル業者「あかね紙業」まで運搬してくれます。あかね紙業さんには牛乳パック以外にもたくさんの紙が集まっています。
- ⑩ 給食の牛乳パック（200ml）約20個でトイレットペーパーが1個作れるそうです。槇尾中学校で1日に飲まれる牛乳はおよそ130人分です。牛乳パックは1日で、約6.5個のトイレットペーパーに生まれ変わっています。



最後に、牛乳パックのリサイクルは紙を無駄にしないだけでなく、二酸化炭素の排出量の削減にもつながります。みなさん、これからも協力をお願いします。